



## 外国人目線で魅力再発見 —— 東京都小平市地域振興部産業振興課

### 都会から 一番近い プチ田舎

小平市は、東京都心から電車で30分ほどの場所にありながら、畑での収穫体験、小平をぐるりと一周する約21キロメートルの緑っぱいの散歩道「小平グリーンロード」、昔ながらの丸ポスト（東京都内一の保有数32本）などによって、「プチ田舎」を体験することができます。当市は、「小平市観光まちづくり振興プラン」に基づいて市民自らが市の魅力に気づき、その魅力を市外の人に発信することによって「訪れたい、住み続けたい」につなげる観光まちづくりを推進しています。

東京都への訪日外国人旅行者は、現在は新型コロナウイルス感染症の影響のために減少しているものの、昨年度までは増加傾向にありました。しかし、東京都へ来訪する訪日外国人旅行者の行先は都心に集中しており、東京都郊外へ足を延ばす方は少ないです。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前にした絶好の機会を逃すことなく「どうすれば小平市に訪れてもらえ

るのか」、この課題を解決するために「観光まちづくり」としてできることを考えました。

訪日外国人旅行者の一定数は日本に住む友人知人を頼って来日するそうです。小平市は人口約19万5,000人中、約5,400人が外国人です。大学が多くあるので、留学生が多く住んでいます。小平市では、市民自らが市の魅力に気づき、発信することを重視していることから、在住外国人が多い特徴を活かして、在住外国人に魅力の発信源になってもらって訪日外国人旅行者の誘客促進につなげたいと考えました。外国人の目線で市の魅力を再発見し、在住外国人や訪日外国人旅行者に伝えるための橋渡し役となってもらうために、2019年度から小平市初の国際交流員（CIR）を招致することにしました。

### お手本は自然と共に暮らす アメリカ合衆国オレゴン州

2019年8月に着任したサラ・アンダーウッドさんは、アメリカ合衆国オレゴン州の出身です。サラさんの出身のユージーン市は、オレゴン大学が本拠地を置く学生のまちです。なお、お隣のポートランド市は、アメリカ人が住んでみたいまちNo.1で有名なまちです。オレゴン州には、住人の「暮らし」を観光資源とする文化があり、小平市が参考にしたい「観光まちづくり」があります。



着任時のサラさんと小平市長



小平市国際交流協会（KIFA）のイベントで、オレゴン州の紹介をするサラさん

昨年は、サラさんが小平市を知って訪日外国人旅行者への対応を進めていく土台をつくるために、パンフレット、ホームページおよび窓口封筒などを多言語化したり、こだいら観光まちづくり協会が主催するまち巡りに参加して外国人向けのコースを考えてきました。その中で、サラさんが課題に挙げたのが、文化施設の多言語化でした。

## 市内施設の魅力再発見

小平市にはユニークな施設がたくさんあります。日本で唯一下水道管の中に入れる「ふれあい下水道館」や、世界的建築家・妹島和世<sup>せしま</sup>氏設計の図書館・公民館施設「なかまちテラス」、江戸の古民家を展示する「ふるさと村」、そして「平櫛田中彫刻美術館」です。

ふれあい下水道館となかまちテラスでは、訪日外国人旅行者への対応として、施設看板や施設パンフレットを多言語化する事業をサラさんと進めています。

## 美術館の魅力を外国人目線で

小平市が世界に誇る施設のひとつ、平櫛田中彫刻美術館は日本の近代を代表する彫刻家・平櫛田中を紹介する美術館です。美術館では、世界の人々に日本の芸術・文化の魅力を伝えるために、日本文化や歴史的な背景をどのように伝えていくかが大きな課題でした。美術館ではCIRの着任をチャンスととらえて、芸術や文化の分野の多言語化に取り組んでいます。

現在美術館では、平櫛田中の芸術を伝えるための音声ガイドやホームページのコンテンツのリニューアルを進めています。コンテンツは、外国人にも日本文化を楽しんでもらえるよう、サラさんに解説原稿を作成してもらい、他文化の視点を取り入れる試みを行っています。

サラさんは美術館の平櫛館長（平櫛田中の孫）や学芸員から話を聞き、さまざまな資料を読み、日本の美術や文化の専門用語を学びながら原稿を作ります。その原稿をもとに、資料から読み取ることができない微妙なニュ

アンスを、美術館学芸員とのディスカッションを通してすり合わせていくことに時間をかけて進めています。

平櫛田中彫刻美術館のホームページでは、昨年度サラさんと取り組んだ施設のPR動画を公開しています。また、美術館にお越しの際にはぜひ音声ガイドを利用してみてください。

新型コロナウイルス感染症の影響により訪日外国人旅行者は激減してしまいましたが、今後、新型コロナウイルス感染症の影響が終息に向かうにつれて、再び増加していくと思われます。その日を迎えたときに一人でも多くの方に小平市へ訪れてもらうためには、CIRが自らまちの魅力を再発見して、在住外国人や訪日外国人旅行者へ伝えていくことが重要です。小平市が外国人にとっても「訪れたい、住み続けたい」まちとなるように、サラさんの活躍を期待しています。



平櫛田中彫刻美術館は、訪日外国人旅行者が楽しめる日本文化体験が詰まっています



在住外国人と日本文化を体験するイベントでは、美術館の展示内容を通訳しました（左から2人目がサラさん）